

## V 調布市立上布田保育園

### 第1 総括

保育所保育指針の改正に伴い、子ども一人ひとりの主体性を生かした保育について、さまざまな外部研修や園内研修等にて学んできた。保育士からのストレスになるような言葉による導きや指示命令などはしなくても、周囲の環境を上手く整えていけば、子どもは自発的に関わりあいながら遊び、遊びの中から学んでいくといわれている。本園でも従来の一斉保育のあり方や行事のあり方を見直しながら、「遊びを中心とした自発性を尊重する保育」を目指し、実践を積み重ねてきた。「主体性」というものを保育の中でどう捉えていくか、それぞれの受け止め方の違いから噛み合わずに話し合いを重ねたこともあった。今までの取り組み方とは違い、戸惑う職員もいたが、実際に生き生きと自分らしさを出していく子どもを見て、手応えを感じる職員もいた。今後も研修や日々の保育の見直しをしていく中で、「主体性」について追及し、保育の質を上げていくことに努めていく。

また、昨年度から始動した「食育・アレルギー会議」の中で、保育士、栄養士、調理師、看護師がお互いの職種からの視点で意見交換を重ね、「食育計画」「食育体験計画」「給食計画」「入園時の食材チェック表」「離乳食のしおり」を1年かけて作り上げた。最善を求めて話し合いを重ねたことで職員の知識も広がり、職種を超えたお互いの考えを知ることができ、それぞれの学びとなった。職員が自ら主体的に取り組み、他職種の職員と手を組んで一つのものを作り上げていったということが大きな成果であった。この会議を通して学んだことを、今後の職員会議にも繋げていき、職員会議の活性化を図り、職員一人ひとりの主体的な取り組みによって園を作り上げていけるように努めていきたい。

### 第2 経営実績

#### 1 定員

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	10	12	18	22	22	90
実数	8	12	14	19(1)	22(1)	23	98

※( )内は、障がい児の受入れ数

#### 2 利用率

(単位：%)

事業名	平成30年度 実績	平成29年度 実績
上布田保育園	108.7	108.7

### 第3 事業報告

#### 1 重点事項への取組

##### (1) 縦割り保育の質の向上

昨年度より引き続き、0歳から6歳までの園全体での縦割り保育を意識して取り組んだ。幼児クラスにおいては、縦割りグループで過ごすことで自然と縦割りならではの学びが繰り返されているが、乳児クラスにおいては意図的に環境設定していく必要がある。2階の部屋を開放し、0歳児と1歳児が自由に行き来できるようにコーナー作りをしたり、園庭遊びや合同散歩などで乳児、幼児と一緒に過ごす機会を多く持つようにした。集会では、クラスごとに座ることにこだわらず全員が広いござに座って参加する形を取ると、大きい子が小さい子を膝の上に乗せて話を聞く光景が自然と多く見られるようになり、年齢やクラス関係なく、お互いの名前を知り、呼び合うことも格段に増えた。特に幼児クラスの子どもたちが乳児クラスの散歩の手伝いを申し出たり、お世話をしに2階に上がることも日常的に行われるようになり、子どもたちの想いを尊重した主体的な活動にも繋がっていった。

また、それに伴い職員同士の協力体制や声の掛け合いが重要となってくるが、職員一人ひとりが意識を高く持ち、クラスにこだわらず対応し続けたことにより、年齢を超えての系統だった保育の展開が見通せる力がつき、職員の質の向上ということにおいても大きな成果へと繋がった。

##### (2) 保護者支援

保育士体験や保育参観を通して日常の保育をありのまま見てもらい、保育園での子どもの様子や保育への理解へと繋げていった。特に保育士体験においては一日中保護者が保育園にいて職員とも長い時間を一緒に過ごし、子どもに対しての想いを共有する良い機会となった。参加を促す職員からのアピールも積極的に行い年々参加者は増え、今年も延べ90人の保護者が参加をした。今年は父親の参加が目立ち、子育てを夫婦一緒に行っている家庭が増えてきていることが窺える。それぞれの家庭と、その子にとって何が今大切かということをお話合える関係作りにおいて、おおいに役立った。

また、保育の中での子どもの育ちや様子を、写真などを使いながら掲示物を作り、わかりやすく楽しみながら伝えられるように心掛けてきた。それを楽しみにして帰ってくる保護者も多く、忙しい日々の中での視覚からの伝達は効果的であることがわかった。保育士体験と共に、保護者と一緒に育ちの喜びを共有するための方法として、今後も積極的に取り組んでいきたい。

### (3) 園内研修

園内研修を年6回行い、その中で職員一人ひとりが実践レポートを書くことで自己評価も行った。自分が行ってきた保育の実践を検証することで、その後の見通しを持った保育計画にも繋がり、それを職員で共有することで子どもへの理解も共通認識されることとなり、職員皆で子どもをサポートするという姿勢作りにも繋がっていった。

グループトーク型の園内研修においては、「子どもの人権」について意見交換をする機会も持ち、自分以外の人の想いを聞いたり、さまざまな視点から物事を考えることにとっても役立つと職員から好評であった。

また、昨年度から始めた「食育・アレルギー会議」の中で、保育士、栄養士、調理師、看護師がお互いの職種からの視点で意見交換を重ね、「食育計画」「食育体験計画」「入園時の食材チェック表」「離乳食のしおり」を1年かけて作り上げた。最善を求めて話し合いを重ねたことで、職員の知識も広がり、職種を超えたお互いの考えを知ることができ、それぞれの学びとなった。職員が自ら主体的に取り組み作り上げたということも、大きな成果であった。このことを今後職員会議や園内研修にも繋げていき、更なる質の向上を目指していきたい。

## 2 実績報告

### (1) 園児の受入状況

月別の園児受け入れ状況は次のとおりである。(単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
受託児	5歳児	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
	4歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
	3歳児	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
	2歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
	1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	0歳児	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	計	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98	98

### (2) 地域の子育て支援

#### ア 保育園体験

地域の親子を対象に0歳児、1歳児、2歳児クラスに各5組ずつ受け入れ、月1回在園児と一緒に活動に参加する「保育園体験」を行い、園児、担任との交流を持った。

また、誕生会にも参加し、園児と同じように誕生日カード、かんむりを渡し、誕生日を園児・職員皆でお祝いした。

月1回、定期的に活動に参加することで、園児との繋がりが築けるとともに、参加者同士の関係づくりもできた。また園児との交流の中で、子育ての見通しが持てるようになった。担任と話す機会を多くとることで、日ごろの育児の悩みなど、気軽に相談できるような関係づくりができた。

育児休業中を利用しての参加者も多く、次年度の入園申し込みに繋がるケースも多くみられた。

#### 保育園体験の状況

(単位：組)

保育園体験	参加者	誕生会	参加者
5月16日	7	5月17日	1
6月27日	9	6月14日	3
7月25日	8	7月19日	2
8月29日	7	8月23日	2
9月26日	9	9月20日	0
10月31日	10	10月18日	1
11月28日	8	11月15日	0
12月19日	9	12月13日	1
1月25日	8	1月17日	1
2月27日	11	2月21日	1
3月27日	8	3月14日	0
延べ人数	94	延べ人数	12

※ 感染症の流行が見られる場合は中止とした。

#### イ 給食体験

##### (ア) 離乳食体験

初めての離乳食を始める地域の子育て中の親を対象に、栄養士、保育士による離乳食の開始時期の目安、初期食、中期食の進め方、実際の調理方法などを学んでもらった。2回を1セットとして募集をし、1回目の講習は離乳食を始める前、2回目の講習は実際に離乳食を始めてから受けてもらう形をとった。分からないことや困っていることを聞きながら理解を深められ、中期食へと移行していくという形式が好評で、十分な支援ができたという手ごたえを感じた。

## 離乳食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
6月8日	8
9月7日	8

## (イ) 乳児食体験

地域の乳児とその親を対象に、給食を園児と同じ環境で一緒に食べる機会を設けた。

乳児食の味つけや量を体験したり、その他、お便りを通して環境設定や食具についても情報提供した。

## 乳児食体験の状況

(単位：組)

実施日	参加者
9月13日	3
9月27日	3
10月11日	0
10月25日	1
2月7日	3
2月14日	2

## (ウ) 保育講座

毎年恒例となった科学遊びやミニ音楽会、親子ヨガなどは参加者数も安定していた。ミニ音楽会は子どもたちの知っている曲を演奏し、子どもたちも喜び、とても盛り上がった。

今後は親子で楽しめる講座を中心に、内容を検討していく。

## 保育講座の開催状況

(単位：人)

月 日	講 座 名	参加人数
5月19日	親子で楽しむ科学遊び	14
6月16日	わらべうた	20
9月15日	リトミック	15
10月20日	ミニ音楽会	16
10月29日	親子ヨガ	20
1月26日	講演会「心と体を育む食とは」(兼職員研修)	30

### (3) 園児の健康報告

#### ア 感染症

1年を通して、夏の感染症や胃腸炎の流行もなく、健康的に過ごす事ができた。インフルエンザも園内で蔓延する事なく最小限の発症にとどまった。生活リズムを基盤にし、子どもの体調について家庭と密に連絡を取り早めに対応したり、園内の環境を衛生的に保てるようにした。

#### 感染症発症状況

(単位：人)

溶連菌感染症	18	アデノウィルス感染症	1
ヘルパンギーナ	5	突発性発疹	4
手足口病	2	伝染性膿痂疹	1
インフルエンザ A	11	胃腸炎	6
RSウイルス感染症	3	伝染性紅斑	4
クループ	2		

#### イ 受診状況

1回の受診で済むケースがほとんどだった。日々の怪我記録簿を活用し、ヒヤリハットケースを職員間で周知し、同様の怪我が発生しないように安全対策を講じてきた。

#### 受診ケース

月 日	年齢・性別	項目	受診先
4月 9日	4歳児男児	眼に砂が入る	眼科受診
5月 23日	3歳児女児	前歯の打撲	歯科受診
5月 28日	2歳児男児	右肘内障	整形外科受診
10月 1日	4歳児男児	蜂刺され	皮膚科受診
10月 15日	3歳児女児	後頭部打撲	脳外科受診
11月 13日	3歳児男児	額の打撲	外科受診
11月 27日	3歳児女児	股の打撲	婦人科受診
12月 10日	2歳児女児	左肘内障	整形外科受診
12月 26日	3歳児男児	右手薬指爪打撲	外科受診
1月 16日	4歳児男児	前歯の打撲	歯科受診

#### ウ その他

歯科検診を年2回、歯みがき指導を年2回、乳児健診を毎月、全体健診を年2回行い、子どもたちの健康状態を把握し、健やかな成長をサポートした。

また、職員に対して手洗い指導や嘔吐処理研修を行い、子どもたちの健康を職員全員で守っていく姿勢を持って取り組んだ。感染症の流行の兆しが見えた場合には、園内の消毒を徹底するなど意識を高く持ち取り組むことができた。

検査名	時期	人数	結果
尿検査	6月	60人	全員陰性
歯科健診	5月	97人	虫歯あり4人
歯磨き指導	6月	受けた園児 61人 受けた職員 11人	
歯科健診	11月	92人	虫歯あり6人
歯磨き指導	11月	受けた園児 74人 受けた職員 14人	

#### (4) 障がい児保育

本年度は支援を必要とする障がい児は2人であった。また、子ども発達センターから保育園体験児を2人受け入れ、交流保育を行った。

ア 生活、活動の中での様子、検討したいことなどを個人記録としてまとめ、作業療法士に目を通してもらい、月1回の来園時にその記録を基に子どもの様子を観察してもらった。

その日の午後のケース会議にて専門的な視点で子どもへの支援方法、指導の仕方等のアドバイスをもらい、日々の保育に活かした。

イ 保護者からの要望や希望があるときは、職員を通して作業療法士への相談等も受け、子どもにとって最善の支援を一緒に考えていくようにした。

ウ 必要に応じて、関係する療育機関と連絡を取り、お互いの状況を把握する中で、日々の保育、療育に活かせるようにした。

障がい児の状況

(単位：人)

3歳児	4歳児	5歳児
1	1 (1)	0 (1)

\* ( ) は保育園体験児

#### (5) 年間行事報告

1年間に実施した行事は、次のとおりである。

月日	項目	内容
4月7日	入園進級式 (保護者会を兼ねる)	晴天の中、園庭の桜の木の下で行い、一年の始まりを気持ちよく迎えることができた。新入園児一人ひとりを紹介し、進級児が歌やダンスで温かく迎え入れてくれた。それぞれが大きくなったことを喜び、新年度の期待が膨らむ会となった。

月日	項目	内容
5月12日	ふれあい遠足	お天気に恵まれ、神代植物園自由広場にて、全園児とその保護者が参加し盛大に行われた。乳児クラスは現地集合、3・4歳児はバスと徒歩、5歳児は保育園より歩いての参加であった。広場では凧揚げ、相撲、シャボン玉、ボール、芝滑りなどのコーナーに分かれ、おとなも子どももめいり遊び、笑顔が溢れていた。
5月8日～ 17日	クラス懇談会	進級・入園から2か月を経てのクラスの様子を伝え、今後の子どもたちの育ちについて見通しが持てるような話をした。保護者同士の交流もできるような時間を持ち、それぞれの子どもたちの情報交換も行った。
6月28日	プール開き	天候にも恵まれ、予定通り行うことができた。入水前に水神様にお神酒をささげ、この夏のプール遊びの安全を皆でお願いし、乳児クラスは水遊びを、幼児クラスは縦割りグループ対抗のゲーム遊びをプールで行った。
7月7日	夏祭り	絶好の夏祭り日和となり、たくさんの来客で大盛況であった。恒例となった職員によるオープニングでは父母会からの担当の保護者も参加し、お店紹介を盛り上げてくれた。子どもたちは5歳児の手作りゲーム屋、職員のゲーム屋、手作り玩具の店を、おもちゃの財布とお金を持ってまわり楽しんだ。今年はお父さんたちによる紙飛行機屋さんも加わり、「父母会との共催」という文字通り、保護者と団結して子どもたちが楽しめる会を催すことができた。
7月27日～ 28日	お泊り保育	5歳児23人がお泊まり保育を行った。子どもたちがワクワクして当日を迎えられるような仕掛けを早くから行い、盛りだくさんのイベントを思いっきり楽しんだ。中でも目玉おやじを助けるために暗い園舎の中を勇敢に妖怪たちに挑んでいくゲームでは、普段から築いている仲間との絆が光り、やり遂げた達成感も味わうことができた。 子どもたちは翌朝、ひとまわり大きくなったような表情で迎える保護者を出迎え、保護者もその姿に感動していた。お互いにひとつ大きくなった手応えを感じる会であった。
9月14日	おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に遊ぼう会	園児の祖父母31人の参加があった。園児どの子どもと遊んでくれる祖父母が多く、お互いに楽しい時間を過ごすことができた。始めに全体でふれあい遊びを行い、その後各コーナー遊びに分かれて、昔ながらの伝承遊びを楽しんだ。 年長児が「和太鼓」の演奏をご披露し、昼は園児との会食を楽しんだ。給食は美味しいと好評で喜ばれ、帰りには5歳児の作ったお礼の折り紙の花をプレゼントした。



月日	項目	内容
10月6日	運動会	<p>青い空の下始まった運動会であったが、開会式の途中で急な雨に見舞われた。一時雨宿りをする中、子どもたちが歌いだした「にじ」が歌い終わる頃には雨もやみ、最後まで予定通り行うことができた。それぞれの年齢の発達や4月からの積み重ねが披露され、大きく成長した喜びを分かち合い、多くの感動を子どもたちからもらうことができた。</p> <p>突然の雨というハプニングの中で、子どもたちの想いやたくましさも見せることができ、いつもとはまた違う手応えを感じることができた。</p>
10月26日	秋の園外保育	<p>(乳児) 園庭にて、いも掘りごっこを楽しんだ後、楽しみにしていた弁当を皆で食べた。</p> <p>(幼児) 片道40分ほど歩いた所にある越山農園へ行き、いも掘りを楽しんだ。園に帰ってから園庭にシートを広げ、皆でお弁当を食べた。</p>
11月2日	いも煮会	<p>いも掘りで収穫したサツマイモを洗って切ったり、野菜などをちぎって使ったりと、2歳児～5歳児までの子どもたちが調理を楽しみ、青空の下、園庭で会食し、秋の収穫を味わい楽しんだ。</p>
11月1日～ 11月30日	全クラス個人面談	<p>午睡(13時～15時)の時間を利用し、保育園の様子や家庭での様子についてお互いの情報交換をした。11月は保育士体験月間であるため、保育士体験と個人面談をセットで行う保護者が多かった。普段の保育に参加してからの個人面談は、より中身の濃い話ができ、有意義な時間となった。</p>
12月1日	親子で一緒に楽しむ会	<p>大きな保育参観として、普段の保育を見てもらいながら保護者と一緒に楽しい一日を過ごす。今年は「子どもの主体的な遊びからの学び」を意識して、クラスごとに各年齢にあった日常の保育の延長上のイベントを企画し、保護者にも参加してもらう。生き生きと自分らしさを輝かせる子どもたちの姿を見てもらい、皆で育ちの喜びを分かち合った。</p>
12月7日	もちつき	<p>新しい年を迎える前に餅をつくことの意味を知り、餅つきを体験した。子ども用の杵を使い、自分たちでつく楽しさを味わった。今年度も3人の5歳児の父親が「もちレンジャー」に扮し、保育士体験での成果か、慣れた様子で子どもたちを仕切り、片づけまで手伝ってくれた。その後一緒についた餅入りの給食を食べ、会を盛り上げてくれた。</p>
12月21日	クリスマス会	<p>ホールにて全園児が集まり、クリスマスの雰囲気を楽しみながら、職員による楽器演奏やオペレッタを楽しんだ。そこへサンタクロースが登場し、各クラスへ玩具のプレゼントを渡し、その後、記念写真を撮った。玩具は“サンタさんからの贈り物”として各クラスの遊びで大いに活躍している。</p>
1月9日	新年会	<p>昔から行われてきた伝承遊びやお節料理の意味など、新年についての日本の伝統を子ども達に伝えた。その後、園庭や室内でたこあげ、羽根つき、独楽回し、カルタ、福笑いなどの正月ならではの遊びをみんなで楽しんだ。</p>
1月25日	観劇 劇団「たんぼぼ」	<p>父母会共催の行事で全園児参加。地域の方も加わり劇団「たんぼぼ」の本格的な人形劇を楽しんだ。</p>

月日	項目	内容
1月26日	全体保護者会	<p>昨年と同様に園長の挨拶の後、各クラスの担任から今年度の成果や、次年度へ繋げていくことなどを話した。また、看護師からは発熱時の対応や感染症について、栄養士からは毎日の献立やアレルギー食材について話をした。</p> <p>本年度も子どもの育ちを一本の木に例え、0歳児から順につけていく力を話し、最後に花を咲かせるまでを系統だてて説明した。分かりやすいと好評だった。また、保護者から一言ずつ感想を述べてもらったところ、どの保護者も園への感謝の言葉が続き、職員も励まされた。</p>
2月5日～ 13日	クラス懇談会	<p>5月と同様に全クラス夕方時間に時間を設定し、1年の成長や進級、就学に向けての話を中心に情報交換を行った。保護者の想いも一人ひとり話してもらい、これからの子育てへの意欲へと繋げていけるような会となった。</p>
3月1日	お別れ遠足	<p>(乳児) 0, 1, 2歳児それぞれのクラスで近くの公園へのお散歩を楽しみ、進級するお部屋で保護者の手作り弁当を味わった。</p> <p>(幼児) バスを貸し切りアクアパーク品川へ行った。たて割りグループで館内を見学し、イルカショーやアシカショー、海の生物が間近に見られる海中トンネルを楽しんだ。年2回のお楽しみ弁当を食べ、お友達との楽しい思い出を作ることができた。</p>
3月20日	就学を祝う会	<p>就学児、在園児(3,4歳児)、職員みんなで会を創り上げ、保護者とともに就学する喜びを分かち合うことができた。就学児は自信に満ち溢れ、在園児は憧れの眼差しで就学をお祝いした。保育士体験で子どもたち全員のことを知っている保護者が多く、一人ひとりを見る眼差しがとても温かく感じ、和やかな雰囲気です布田らしい会となった。</p>
定例	誕生会	<p>その月生まれの園児、保育園体験の子どもたちの誕生をみんなで祝うことで大きくなった喜びを共感しあった。</p>
	伝統行事	<p>こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど季節の伝統行事において、それぞれの意味、内容について話を聞いたり、製作や歌を歌ったりして楽しんだ。</p>

## (6) 研修体系

「(6) 研修の状況」を体系別に表すと次のとおりである。

体系		内容 (下記の数字は、「(5) 研修の状況」の「No」を表している。)	回数
一般研修	新任職員研修	2,5,40,46,51,57,58	7
	現任職員研修	1,4,5,6,8,9,10,12,13,15,17,18,19,21,22,26,27,28,29,30,31,36, 38,39,43,44,45,46,47,48,49,50,53,55,58,59,60,62	38
	副主任研修	14,23,25,32,35,37,42,52	8
	主任研修	7,18,20,24,33,34,41,54,61	9
	施設長研修	3,4,16,34,37,41,52,56,57,62	10

専門研修	保育士研修	1,2,5,9,10,11,13,14,17,18,19,21,23,24,25,27,28,29,30,31,32,33,34,35,36,37,38,39,41,42,44,45,46,47,48,52,53,55,57,58,60,62	42
	看護師研修	8,18,21,43,	4
	栄養士研修	7,20,40,51,54,61	6
	調理担当職員研修	11,12,15,38,50,59	6
	事務職研修	4,22,26,49	4
職場研修		年間6回の園内研修(実践研修)及び全体研修	6
研修参加合計		研修参加人数 合計89人、延べ参加人数97人	140

## (7) 研修の状況

研修への参加状況は、次のとおりである。

なお、この他に職員全員参加の園内研修として「心を育てる絵本」をテーマに外部講師を招いて講習会を実施し、「エピペン・AED 講習会」を各自1回ずつ実施した。また、職員全員によるレポートをもとに事例検討会を3回実施し、「私のこだわり」「主体的な遊びで育つ子ども」をテーマにグループ討議やDVD教材を使った研修会を各1回実施した。

(単位:人)

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
1	4月18日	エピペン投与シミュレーション研修	調布市子ども生活部保育課	2	2
2	5月8日	新任職員研修会	東京都民間保育園協会	1	1
3	5月11日	保育所保育指針解説セミナー	日本保育協会	1	1
4	5月16日	東京都の保育行政及び指導検査研修会	東京都民間保育園協会	2	2
5	5月30日~6月1日	障害児保育担当者研修会	日本保育協会	1	3
6	5月31日	食品衛生の基本、防災に役立つ暮らしと食事のポイント	東京都多摩府中保健所	2	2
7	6月5日	保育園給食研修会	調布市子ども生活部保育課	2	2
8	6月6日	小規模プール衛生管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
9	6月6日	書類の書き方	調布市保育園協会	1	1
10	6月12~13日	東京都保育研究大会	東京都社会福祉協議会	2	4
11	6月13日	子どもの食べる力の発達支援	東京都多摩府中保健所	2	2
12	6月14日	備蓄のお悩みに役立つ!施設・飲食店での備蓄の工夫	東京都多摩府中保健所	1	1
13	6月20日	1歳児保育 環境作り～遊びと生活において～	東社協保育士会	1	1
14	6月22日	調布市子ども発達センター療育見学会	調布市子ども発達センター	1	1

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
15	6月28日	嚙む力を伸ばす援助の方法	東京都社会福祉協議会	1	1
16	7月3日	認可保育所講習会	東京都福祉保健局	1	1
17	7月10日	障がい児、保護者との関わり方、接し方	調布市保育園協会	2	2
18	7月17日	子どもを預かる施設における深刻事故予防とコミュニケーション	調布市保育園協会	2	2
19	7月17日	安心感の輪をまわすための大人の要件	東京都社会福祉協議会	1	1
20	7月18日	特定栄養管理講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
21	7月24日	こどものケガや事故に慌てない方法を学ぶ～不慮の事故時の対応について～	調布市子ども生活部保育課	2	2
22	7月24日	福祉経営セミナー	(株)MAN90	1	1
23	7月25日	主任研修会	東京都民間保育園協会	1	1
24	7月30~31日	関東ブロック保育研究大会	関東ブロック保育協議会	1	2
25	8月7日	子どもが豊かに遊びこめる保育環境づくり	芸術と遊び創造協会	1	1
26	8月8~9日	社会福祉法人・施設会計実務研修会	東京都社会福祉協議会	1	2
27	8月9日	就学相談講習会	東京都教育庁 特別支援教育指導課	1	1
28	8月20日	幼児心理講習会	田中教育研究所	1	1
29	8月24日	インクルーシブ保育実践の現状と課題	調布市子ども発達センター	1	1
30	9月5日	子どもに寄り添う保育	調布市保育園協会	2	2
31	9月6日	地域子育て支援研修	東京都福祉保健局	1	1
32	9月10~12日	保育所等マネジメント研修会	日本保育協会	1	3
33	9月10日	改定保育所保育指針研修会	全国保育士会	1	1
34	9月9日	新保育指針で求められる施設長の役割	調布市保育園協会	2	2
35	9月19日	主任研修会	東京都民間保育園協会	1	1
36	10月1日	アンダーマネジメントセミナー	調布市保育園協会	2	2
37	10月3日	エピペン投与シミュレーション研修	調布市子ども生活部保育課	3	3
38	10月16日	普通救命講習会	調布市子ども生活部保育課	3	3

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
39	10月16日	グレーゾーンの子の対応	調布市保育園協会	3	3
40	10月19日	「授乳・離乳の支援ガイド」の改定について	東京都社会福祉協議会	1	1
41	10月22日	愛光女子学園 見学	国立愛光女子学園	2	2
42	10月23日	主任研修会	東京都民間保育園協会	1	1
43	10月24日	子供のアレルギー疾患に関する相談実務研修	東京都安全研究センター	1	1
44	10月29日	「食べて、動いて、よく寝よう！」運動のススメ	調布市保育園協会	2	2
45	11月7日	発達の気になる子どもの保護者支援～子どもを共に支援するための保護者との関係づくりとは～	調布市保育園協会	2	2
46	11月15日	心の育ちと対話、協同的学び	調布市保育園協会	3	3
47	12月4日	わらべうたあそび	調布市保育園協会	2	2
48	12月5日	仲間とつくるやりがいのある保育～育ち合う職場集団を目指して～	東京都社会福祉協議会	1	1
49	12月11日	経営層及び会計担当者向け研修会	東京都民間保育園協会	1	1
50	12月10日	タネが危ない、種子法等について	東京都社会福祉協議会	1	1
n	12月14日	子供のアレルギー疾患に関する相談実務研修	東京都安全研究センター	1	1
52	12月19日	多摩少年院 見学	国立多摩少年院	2	2
53	1月11日	都民アレルギー講演会	東京都健康安全研究センター	1	1
54	1月22日	食品衛生実務講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
55	1月29日	0歳児の信頼関係を築くために～大人との関わりから他に目が向くまで～	東社協保育士会	1	1
56	1月30日	地方議員セミナー	保育研究所	1	1
57	2月5日	防犯講習会	園児交通安全防犯連絡会	2	2
58	2月8日	環境づくりは保育づくり～主体性を引き出す保育環境を考える～	東京都社会福祉協議会	2	2
59	2月8日	アレルギー疾患講習会	環境再生保全機構	1	1
60	2月15日	保育の質を高める金集会	東京都民間保育園協会	1	1

No.	月 日	内 容	主 催	人数	延べ
61	2月21日	食物アレルギー児への保育園での対応	東京都社会福祉協議会	1	1
62	2月26日	保育所保育実践研修会	東京都民間保育園協会	1	1
研修参加人数 合計 89人、延べ参加人数 97人					

## (8) 食を大切にする保育の推進

本年度も食材を育て(野菜の栽培)、食材に触れ(皮むき、さやむき、米とぎなど)、その食材を利用した給食作りを実施した。

芋掘り遠足で掘ってきた芋を利用して芋煮会を行い、2歳児から年長児まで豚汁作りに参加した。また給食で食している料理の中にある世界の料理を給食日よりレシピを一緒に紹介した。

調布市のアレルギーマニュアルの変更をうけて、みんなが食べられる給食献立を心がけ、アレルギーフリーの食材・食品をなるべく使用するようになった。

### ア 行事食と世界の料理紹介

行事食		世界の料理紹介	
4月		インド	カレーライス
5月 子どもの日	鯉のぼりクッキー	フランス	ポトフ
6月		ロシア	ピロシキ
7月 七夕	七夕そうめん	日本	ハヤシライス
8月 防災訓練	非常食	イギリス	ラスク
9月 おじいちゃん おばあちゃん と一緒に遊ぼう会	会食献立 (変わり栗ごはん・鶏唐揚げ・お浸し・吉野汁・ぶどう)	アメリカ ・イギリス	ホットケーキ
10月 ハロウィン	パンプキンパイ	アメリカ	クッキー
11月芋煮会	豚汁	韓国	ビビンバ

12月 もちつき クリスマス	きなこもち クリスマス献立	中国	あんかけ焼きそば
1月 七草粥 鏡開き	七草粥 汁粉	イギリス アメリカ	ビーフストロガノフ
2月 節分 雛祭り	鬼っごはん 雛すし・桜まんじゅう	中国	肉まん
3月 お彼岸	おはぎ	韓国	チヂミ

#### イ 食育

4月		10月	米とぎ
5月	そら豆むき グリーンピースむき	11月	芋煮会 豚汁作り 2歳：野菜ちぎり 3歳：野菜ちぎり 4歳：ピーラー 5歳：包丁
6月	ピーラーの練習 とうもろこし皮むき		
7月	枝豆むき 米とぎ 野菜栽培 皮むき・包丁練習 お泊り保育での夕飯作り（カレーライス）	12月	米とぎ
8月	米とぎ 野菜栽培 とうもろこしの皮むき	1月	米とぎ
9月	米とぎ 野菜栽培	2月	米とぎ
		3月	米とぎ

#### ウ 給食でのカロリーの量

子どもが摂るカロリーについては、昨年度は1年を前半と後半で分けて考えてエネルギー等を変えていたが、本年度は年間通しての設定とした。

(単位：カロリー)

	エネルギー	蛋白質	脂質
乳 児	510	18.5	14.0
幼 児	605	20.0	19.0

エ 食物アレルギー児の状況

卵のみ3人、卵・ゴマ1人、卵・乳1人、計4人のアレルギー児に対しての食事の除去、代替食を実施した。

(9) 防犯・防災対策

ア 避難訓練

訓練は4月から始め、月を増す毎に設定を細かくし、様々な状況に対応できるようにした。毎月の訓練時には、避難通路状況などを確認し、担当が反省点を文章にして記述し、それを基にして次の年度に改め、訓練に取り入れるようにした。

また、防災計画及び自衛消防組織編成を見直し、地震・火災対策に応じた役割分担をはっきりさせるとともに、震災時の対応についてマニュアルを作り、職員同士の伝達、協力体制を強化した。

他にも、開設時間内と時間外に分け、交通機関が止まった時を想定して職員を配置し、行動、対応を徹底させた。

(単位：人)

月 日	内 容	園児	職員
4月25日	火災訓練、消火訓練	73	21
5月22日	火災訓練、消火訓練	94	28
6月19日	火災訓練、消火訓練	85	17
8月27日	地震訓練、消火訓練	98	21
8月31日	地震訓練、引取訓練	90	29
10月10日	火災訓練、消火訓練	53	11
11月10日	地震訓練(土曜日)、消火訓練	2	4
12月6日	火災訓練、消火訓練	88	29
1月16日	火災訓練、消火訓練	88	25
2月19日	火災・地震訓練、消火訓練	93	20
3月25日	火災訓練、消火訓練	88	21

イ 救命訓練 (AED・エピペン)

傷病者を発見してから救急隊に引き渡すまでの訓練を行った。

意識確認→呼吸確認→心肺蘇生→AED、また、119番通報、園児への対



応など一つの流れを作り、誰もが処置できる訓練をした。エピペンの対象児が1人いるため、急遽投与が必要になった際に誰もが適切に対応できるように、エピペン練習用トレーナーを使用してのトレーニングを全職員に行った。

(単位：人)

月 日	参加職員数	月 日	参加職員数
7月19日	7	2月6日	5
12月14日	6	3月14日	6
1月17日	6		

#### ウ 侵入者対策、防犯訓練

昨年作成した完成したマニュアルをもとにの内容を職員間で確認したうえで、事前に具体的な訓練内容は設定せず、不法侵入者役（男性職員）と日程だけ告知し、実際に職員がどの様に動くことができるのかを検証した。この訓練により、マニュアルの中にある役割に沿った動きの難しさや、課題点も出てきたので、今後の防犯に関する職員の意識がより高まった。